

コミュニティフェスタ”

11月12日(日)
市制施行60周年記念
行事の一環として、市
内全域21地区のコミ
ュニティ組織が一同に
会しての一大イベント
が市総合スポーツセン
ターで開催されました。
会場では、ジャンケ
ン大会やウルトラクイ
ズ・地区対抗の百足競
走・コミュニティビデオ
放映・特産品バザー
などが行われ、大勢の
人で賑わいました。



第4回ふれあいツアー

11月16日(木)馬島の大津島公園を会場にふれあいツアーが行われました。
関係者一同、早朝からの会場づくり・販売品集荷・袋詰めなどに多忙を究めまし
たが、午前10時20分参
加者の乗ったフェリーが到
着するころには何とか準備
を整えることができほっと
しました。
一行は説明を受けたのち
会場に所狭しと並べられた
新鮮で格安な農・水産物に
目を見張りながら買い物を
楽しんでいました。買い物
を終えた後は、何時ものよ
うに弁当と海賊鍋が振る舞
われ、大満足の内にはツアー
を終えました。



◎大津島の内科・歯科診療所を もっと利用して下さい。

大津島地区コミュニティ推進協議会
大津島保健組合

1. 地域で担う島の医療！

*診療所の利用者が減っています。

島の人口が減少していますのでやむをえない事情もありますが、大津島保健組合の運営は厳しい状況にあります。島で65歳以上の方が総人口に占める割合(高齢化率)は平成7年4月1日現在43%(徳山市平均15.7%)で非常に高く、今後ますます高齢化が進むものと思われます。

高齢者が多くなれば、高血圧・心臓病などの慢性疾患が増えます。また歯科についても8020(はちまるにいまる)運動が進められていますが、これは「80歳になっても自分の歯を80本保ちましょう」という運動です。

我が国は世界一の長寿国となり、人生80年時代を迎えることとなりました。しかし、歯の寿命は80年には、ほど遠いのが実情のようです。

幸いなことに現在、島には内科・歯科医師がおられるので自分の体や歯の状態を知ってもらい、気楽に何でも相談できるかかりつけ医と患者になりましょう。

◎地域医療を島全体で支えようではありませんか！

2. 大津島へ医師を招へいした経緯！

厚生省の調べによると平成7年全国で無医地区は997か所となっています。

(無医地区とは…医療機関のない地区で、当該地区の中心的な場所を起点としておおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することが出来ない地区)

(1) 僻地、離島の医師の確保は困難になっています。

過疎化が進みますと医療採算が合わないため、医師の開業は見込めません。

若い医師は開業より、高度医療のできる勤務医を望む傾向にあります。

(2) 過疎地には老人が多いため、継続して治療の必要な慢性の病気を持った人が多く見られます。従って、継続して治療するためには、身近なところで治療できることがとても大切で常駐の医師を招へいしてきました。

昭和40年代から加世・笹川・李・林・綿貫先生と内科医は5代目です。

歯科診療については、須金・大津島地区の強い要望により、昭和58年診療所を開設して、中川・福田・石丸先生で3代目となっています。